

**目標**

**被害を減らしたい（なくしたい）**

安心して農作物を  
作りたい！

何とか  
したい！

**地域  
住民**

**協議会  
（町）**

柵を設置しても  
被害が減らない

中・長期的な  
考えが必要？

**専門家に相談してみよう！**

# 鳥獣被害対策アドバイザーの活用

(農林水産省農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー)



かさなりデザイン合同会社の  
鈴木淳です。  
一緒に取組みましょう！

## 活用している理由

- ・このまま個別の対策を続けたらイタチごっこになる。
- ・被害が拡大する前に抜本的な対策を講じたい。
- ・被害対策は「地域に合った対策が必要」と言われるが、具体的にどうしたらいいのか分からない。
- ・地域住民に指導しているが、話を聞いてもらえない。
- ・正しいことをやっているのか分からない。

令和元年度から  
**三位一体**での  
取組みがスタート！

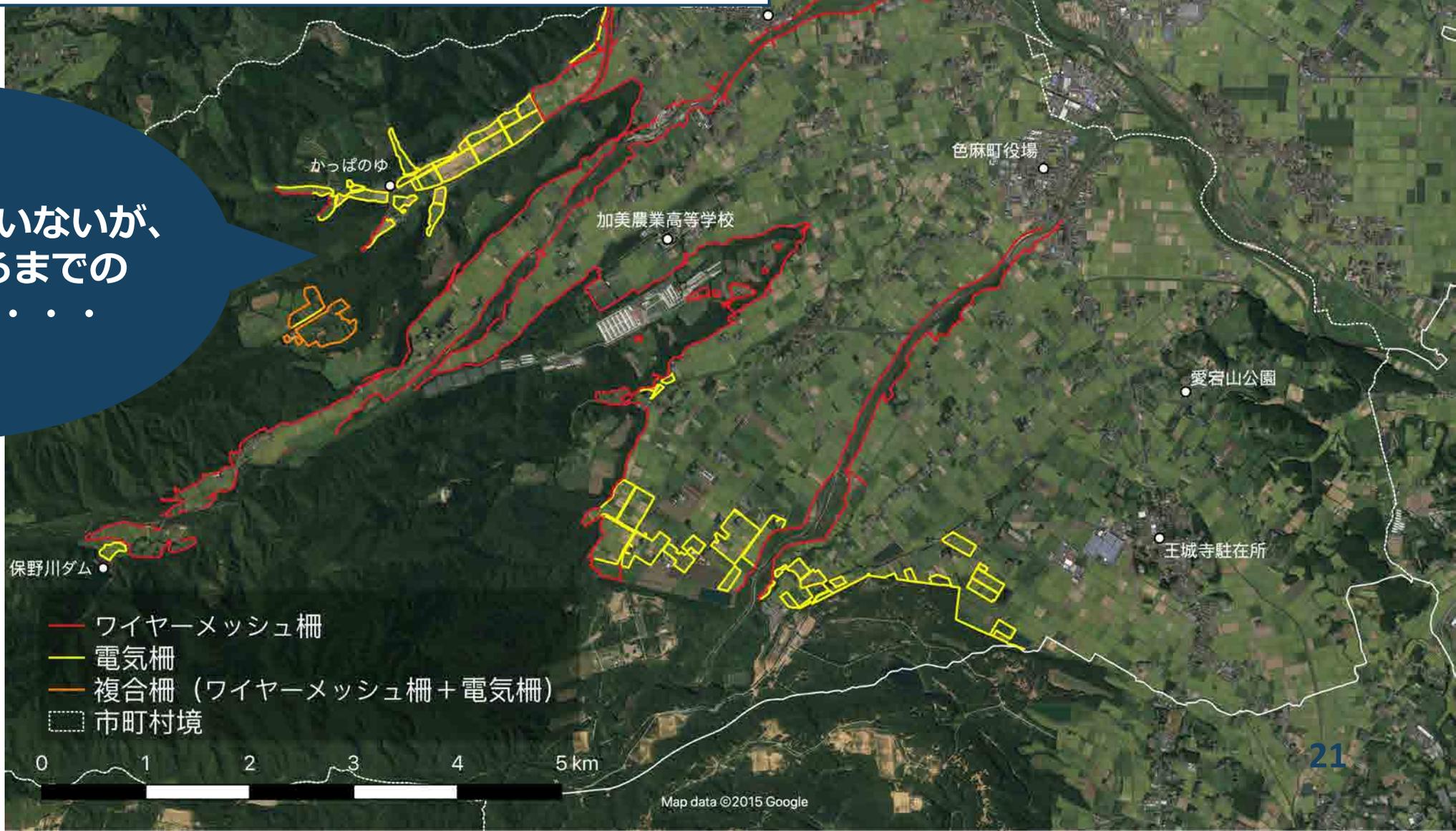
地域  
住民

専門家

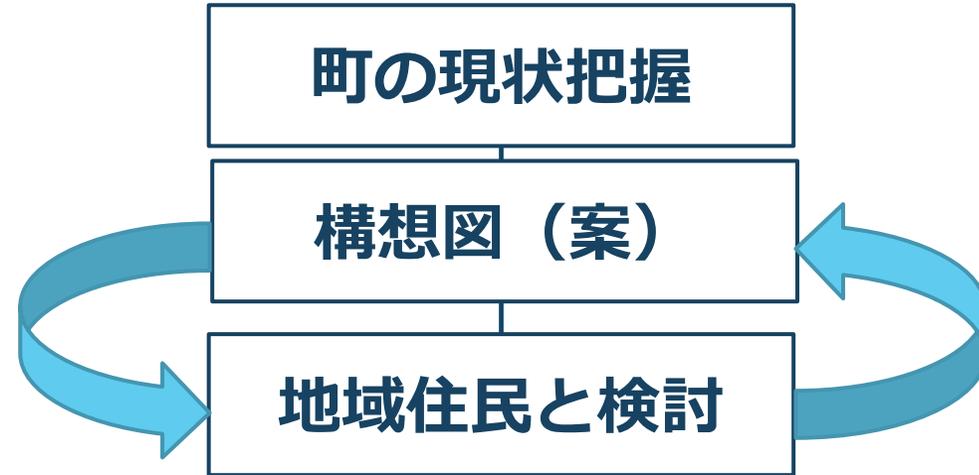
協議会  
(町)

## 現在（令和3年度）の柵設置状況

対策は終わっていないが、  
ここにいたるまでの  
みちのりは・・・



# 町ぐるみ対策のみちのり



## 被害防除

柵の種類  
設置経路  
合意形成

## 環境整備

屋敷林  
河川沿いの藪  
誘引物

## 捕獲

技術  
場所  
体制

## 地域連携

学校教育  
企業  
隣接市町村

# 町の現状把握

対策を検討するために

被害状況、対策方法、捕獲方法、管理体制について調査した。



水田被害



対策の方法



河川の痕跡



捕獲状況

### 3 鳥獣被害対策の取組み

## 町の現状把握

対策を検討するために

移動経路（河川や用水路など）になる環境や痕跡を調査し、どのように行動しているのかを把握した。



屋敷林



蹄の痕跡



用水路の高さを確認



移動経路をたどる

# 町の現状把握

現地調査とともに、町に寄せられている情報も把握した。

## 平成30年度出沒マップ



※ ●: イノシシ, ●: ツキノワグマ 目撃・被害情報を寄せられたものを表示しております。この他にも出沒している可能性があります。

## 構想図（案）

### 現状把握で得られた情報を「見える化」にする

- ・ 鳥獣の利用状況や地域の環境を見える化にすることで、潜み場や誘引元、移動経路などを把握できるようになった。
- ・ 被害が発生した場所をその都度防除するという「その場しのぎの対策」から、広域的に根本的な対策をすべき箇所や重要度が見え、効果的に検討することができるようになった。
- ・ 見える化にすることで、情報を共有できる。

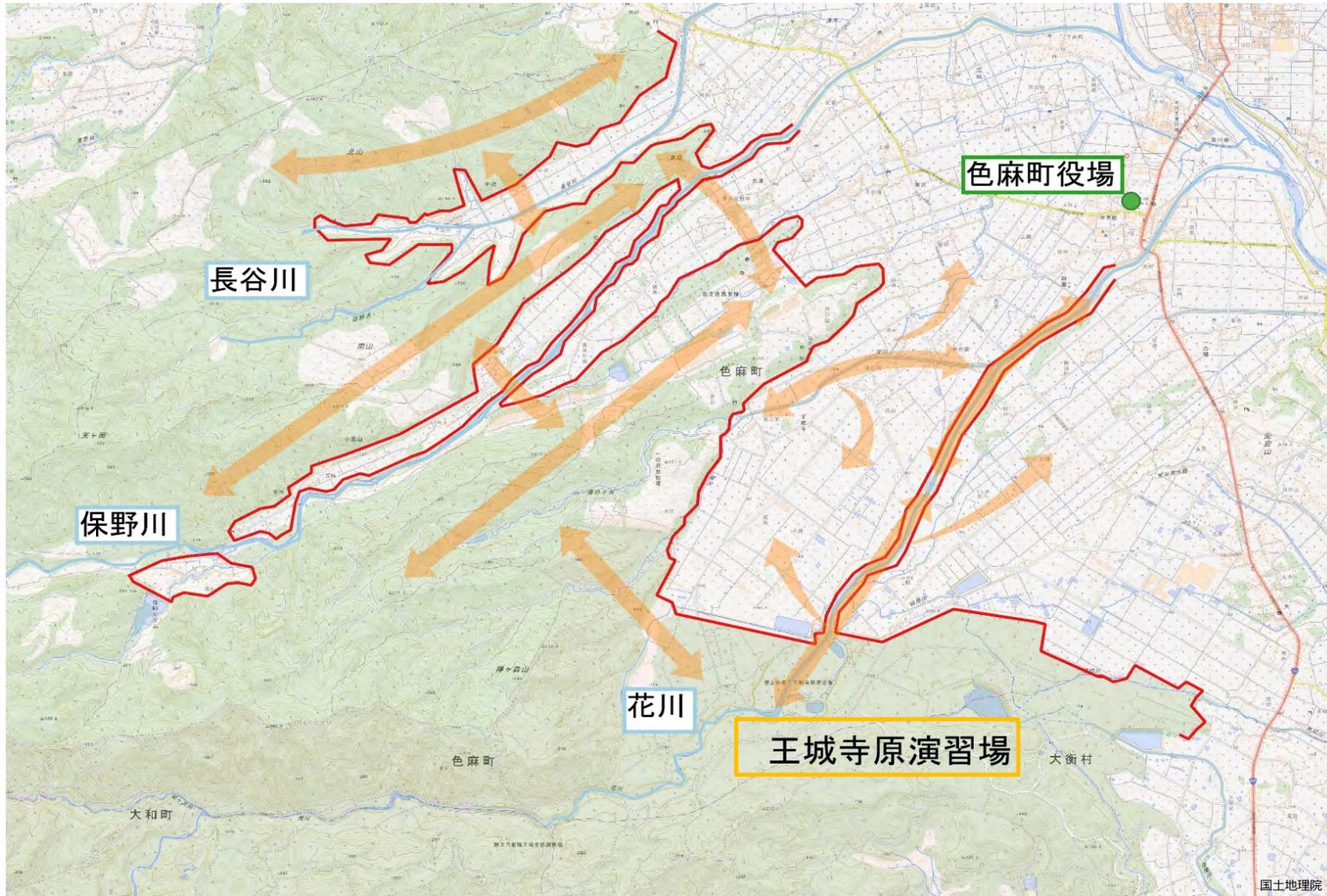
### わかったこと

- ・ イノシシやツキノワグマの生息環境と人里がはっきり分かれている。
- ・ 平野部は平坦でまとまっており、屋敷林があるところ以外は、見通しのよい環境となっている。
- ・ 河川が移動経路になっていた（地域住民は、山側を対策すればよいと思っていた）。

**“対策は地域住民が主体”**

### 3 鳥獣被害対策の取組み

## 構想図 (案)



→ イノシシの動き

— 防除ライン

※イノシシの生息環境と  
地域住民の生活圏の境  
※柵の設置場所の案  
ではない

### 3 鳥獣被害対策の取組み

## 地域住民と検討

### 合意形成

被害が発生していない地域住民は、他人事のように感じている。

時には対策のペースを遅らせたり、話しを寝かせることも大切！

被害対策は、**地域全体の課題**であることを認識してもらおう！

